



三井金属鉱業株式会社

三井金属

東京都品川区大崎 1-11-1

郵便番号 141-8584

2007年11月7日

各 位

## 三井金属 ケチュア鉱区（ペルー）の鉱業権を譲渡

当社 三井金属（社長 竹林義彦）は、ペルー共和国内に所有するケチュア鉱区の鉱業権 100%を、日鉱金属株式会社（社長 岡田昌徳）と当社の共同出資による銅事業会社パンパシフィック・カップ株式会社（社長 加藤英二 以下、PPC 社）が同国に設立を予定する現地法人へ、このたび譲渡することに決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、この鉱業権譲渡による今期業績予想への影響はございません。

### <ケチュア鉱区>

ケチュア鉱区は、ペルー共和国の首都リマから南東へ約 700 kmの標高 4,000m～4,400mにある銅を産する鉱区であり、面積は 5,732ha です。当社は、1970 年から 1980 年と 1995 年から 1998 年の二度の期間に探鉱を実施しましたが、開発には至らぬまま鉱区の保有を継続してきました。

当該鉱区の周辺は、道路や電力などインフラが整い、また、積出しに適した既存の港湾設備にもアクセスがよく今後の開発に有利な立地環境にある鉱区といえます。

### <鉱業権の譲渡>

当社では、ケチュア鉱区の今後の取り扱いについて、かねてより検討を重ねておりましたが、資源確保に注力する PPC 社の事業戦略を踏まえ、同社がペルー共和国に設立予定の現地法人によって今後開発を進めることが適切であるとの判断に至り、同鉱区の鉱業権を譲渡することに決定いたしました。

譲渡価格は 4,000 万 US ドルとし、同鉱区における当社保有の全ての鉱業権を譲渡することといたします。

当該鉱区の譲渡後は、既述の現地法人により 2010 年までを目途に経済性調査が実施され、2012 年後半に操業が開始される見込みです。

### <事業環境ならびに当社の海外鉱山開発>

昨今、旺盛な需要を背景に銅・亜鉛などの金属価格が高水準を示す中、原料鉱石の安定供給を図るため、鉱山開発の重要性が増しています。当社の銅事業は現在、PPC 社を通じ展開されていますが、同社においても銅精鉱の安定調達のため資源確保に積極的な取り組みが行われています。

当社は、1960 年代以降、海外鉱山開発を本格化させ、ペルー共和国を中心に亜鉛ならびに銅を対象に探鉱を行ってまいりました。現在当社は、同国内で亜鉛を産するワンサラ、パルカの両鉱山を操業し、銅においても過去にカタンガ鉱山を操業するなどの実績を有しています。

#### 【ケチュア鉱区】

- ・所在地 ペルー共和国クスコ県エスピナル郡  
(首都リマの南東約 700 km、標高 4,000m～4,400m)
- ・鉱区面積 5,732ha
- ・埋蔵鉱量 約 260 百万 t (銅品位 0.61%、銅量ベース 約 160 万 t、カットオフ 銅 0.4%)
- ・譲渡価格 4,000 万 US ドル
- ・探鉱期間 1970 年～1980 年、1995 年～1998 年 (一時期中断をはさみ二度実施)

#### 【PPC 社】

- ・会社名 パンパシフィック・カッパー株式会社
- ・所在地 東京都港区虎ノ門 2-10-1 新日鉱ビル 8F
- ・代表者 代表取締役社長 加藤英二
- ・資本金 22,700 百万円 (三井金属の出資比率 34%)
- ・設立 2000 年 10 月
- ・人員 175 人 (2007 年 10 月 1 日現在)
- ・主要事業 委託製錬による電気銅、硫酸、貴金属、その他銅製錬副産物の製造・販売 他
- ・売上高 約 681,300 百万円 (2007 年 3 月期)

以 上

#### 【本件お問い合わせ先】

三井金属 経営企画部 広報室 TEL 03-5437-8028 FAX 03-5437-8029  
E メール PR@mitsui-kinzoku.co.jp